

# 小金井市学校施設長寿命化計画改定版

## ～概要版～

令和8年3月 教育委員会

### 背景・目的

本市では、令和3（2021）年3月に「小金井市学校施設長寿命化計画」（以下「前計画」という。）を策定しました。前計画において、コンクリート圧縮強度不足の校舎棟は10年を目途に建替えを含む対応を検討している一方で、児童生徒数の増加が予測されている学校の対応についても喫緊の課題としていました。また、老朽化が進む外壁や屋上防水などの部位修繕についても優先的に進めていくとしていました。

本計画では、今後の学校施設を将来にわたって長く使い続けるため、施設の維持管理や更新を適切に行っていくために、前計画策定以降の5年間の変化を踏まえ、個別施設の状況を調査し、整備方針を見直して実効性の高い計画とします。

### ● 学校施設整備方針

目指すべき姿	整備方針
(1) 安全・安心な施設	<ul style="list-style-type: none"><li>① 低強度建物への対策<ul style="list-style-type: none"><li>・低圧縮強度の7棟は長寿命化改修に適さないため、建替えの計画・設計を行います。</li></ul></li><li>② 長寿命化改修／建替えの併用による効率的な施設整備<ul style="list-style-type: none"><li>・長寿命化改修工事や中規模改修工事等を実施し、建物の目標使用年数を80年とします。</li><li>・各学校施設の状況や今後の児童生徒数の動向、学区を踏まえ、長寿命化改修だけでなく建替えを含めた整備方式を設定し、効果的・効率的な老朽化対策を実施します。</li><li>・建替えや長寿命化改修まで10年以上期間が空く学校については、老朽化の進行が指摘されている屋上防水や外壁の改修を早急に実施し、安全性の確保に努めます。</li></ul></li><li>③ 生命を守り抜く安全・安心な施設の整備<ul style="list-style-type: none"><li>・建替え後の校舎に関しては、高い耐震性能を有し、安全性能と耐久性を備えた施設とします。</li><li>・児童生徒の安全管理と防犯機能を備えた施設とします。</li></ul></li></ul>
(2) 教育環境・生活環境の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>① 健やかで衛生的な施設の整備<ul style="list-style-type: none"><li>・教室は快適な空間となるよう環境を整えます。</li><li>・衛生面に配慮した給食室を整備します。</li><li>・トイレの洋式化を引き続き進めるとともに、床の乾式化等による環境改善を推し進めていくための方針を作成します。</li></ul></li><li>② 多様な学習・活動を支える施設の整備<ul style="list-style-type: none"><li>・建替えの場合、普通教室は小金井第一小学校の72㎡を参考とし、多様な学習、活動を展開できる教室スペースを確保します。</li><li>・建替えや長寿命化改修によって、少人数での学習や多目的な活動などの多様な学習形態に対応できる施設とします。</li></ul></li><li>③ 児童生徒数・学級数の変化に柔軟に対応できる施設整備<ul style="list-style-type: none"><li>・少人数教室等は普通教室に転用しやすい設えとし、学級数の増加に対応できる施設とします。</li><li>・将来、児童生徒数が減少した場合に施設の一部を多目的に利用することを想定し、可変性のある施設として整備します。</li></ul></li></ul>
(3) 防災拠点としての施設	<ul style="list-style-type: none"><li>① 防災拠点としての機能の整備<ul style="list-style-type: none"><li>・部材の落下防止やガス・水道・電気の設備配管等の安全対策による防災性・安全性の向上</li><li>・障がい者や高齢者などにも十分対応できる設備の整備</li><li>・体育館空調設備の維持管理・断熱性能強化</li></ul></li></ul>

### ● 学校施設の実態

#### 児童生徒数及び学級数の変化

- ・令和7（2025）年度 8,624人（ピーク時（昭和53（1978）年度）の約76%）
  - ・今後、市全体の児童生徒数は減少予測
  - ・中学校の生徒数は直近5年間では微増傾向
- さらに、35人学級の導入と併せて学級数増加が見込まれる。

#### 学校施設の配置状況

- ・2030年度の学校施設の配置状況は、市東部は今後も大規模校を維持する小学校が多く、市西部では学級数が減少するなど地域によって状況が異なる。
- ・市南部では中学校が小規模校化する可能性あり。

#### 学校施設の整備状況

- ・延床面積 約10.2万㎡（小学校9校、中学校5校）
- ・旧耐震 約80%（面積比）
- ・低強度 7棟
- ・築30年以上 約96%（面積比）
- ・昭和46（1971）年度から昭和53（1978）年度に多くの学校建設が集中
- ・平成2（1990）年度以降の建替えや増築は体育館の増築など数校のみ

目指すべき姿	整備方針
(4) すべての人にやさしい施設	<ul style="list-style-type: none"><li>① 特別な教育的ニーズがある児童生徒を支援する環境整備<ul style="list-style-type: none"><li>・今後は各階に移動できるよう、エレベーター等の拡充、車いす利用者だけでなくオストメイト対応等の多目的トイレの設置、ユニバーサルデザインへの対応などに努めます。</li><li>・特別支援学級等においては、教室確保について適切に対応します。</li></ul></li></ul>
(5) 地域とともにある施設	<ul style="list-style-type: none"><li>① 児童の放課後の居場所としての施設の整備<ul style="list-style-type: none"><li>・学童保育所の活動支援や放課後子ども教室等との連携が図りやすい施設を整備します。</li></ul></li><li>② 地域との連携・協働の場としての施設の整備<ul style="list-style-type: none"><li>・「学校運営協議会」「地域未来塾」「地域学校協働活動」などの活動を支えるため、建替え時には地域住民による施設の一部利用を想定した施設構成やスペース確保を検討し、連携に配慮した施設を整備します。</li></ul></li><li>③ 学校と他の公共施設との複合化・共用化の促進<ul style="list-style-type: none"><li>・「小金井市公共施設在り方・再編方針」を踏まえ、安全性と望ましい学習環境、及びその整備に向けた費用の確保のため、他の公共施設との複合化・多機能化を検討します。</li><li>・時間外の学校施設を有効に活用し、地域活動の拠点とします。</li></ul></li><li>④ 横断的な協働体制の構築<ul style="list-style-type: none"><li>・「防災」「地域連携」「複合化・多機能化」「維持管理」などへの対応に向け、今後は教育委員会のみならず、市長部局や学校、学校運営協議会等と連携し、施設の適切な維持管理・進捗管理を行います。</li></ul></li><li>⑤ プールの在り方の検討<ul style="list-style-type: none"><li>・屋内化による気候変動への対応や複数校での共用化による維持管理費削減等、新たな取り組みへの可能性も含め、総合的なプールの在り方を検討します。</li></ul></li></ul>
(6) 環境にやさしい施設	<ul style="list-style-type: none"><li>① 環境への負荷の低減に配慮した施設の整備<ul style="list-style-type: none"><li>・敷地内の緑化を積極的に行い、緑に親しむことができるようにします。</li><li>・建物の高断熱化やLED照明の採用等による省エネルギー化を図ります。</li><li>・太陽光パネルの設置等による再生可能エネルギーの導入を図ります。</li></ul></li><li>② 児童生徒や地域の環境教育に資する施設の整備<ul style="list-style-type: none"><li>・省エネルギーや再生可能エネルギーの取組効果を可視化するとともに、より効果的な対応策につながるようにします。</li></ul></li></ul>

